

左大臣橘 卿を寿かむために予め作る歌一

首

四二五六番

古いにしへに 君きみの三代みよへ経て 仕つかへけり 我あが大主おほぬしは
七代ななよまを申さね

十月二十二日に、左大弁紀飯麻呂朝臣の家に

して宴うたげする歌三首

四二五七番

手たつかゆみ束弓て 手とに取り持もちて 朝狩あさがりに 君きみは立たたしぬ
棚倉たなくらの野のに

四二五八番

明日香あすかがは川かはと 川門かはとを清きよみ 後おくれ居ゐて 恋こふれば都みやこ
いや遠とほそきぬ

四二五九番

十月かみなつぎ しぐれの常つねか 我わが背子せこが やどのもみ
ち葉ちば 散ちりぬべく見みゆ